

年　月　日 提出

電気通信大学次世代研究者挑戦的研究プログラム応募申請書			
学籍番号		(フリガナ) 氏　名	
博士後期課程入学年度 (入学年・入学月)		所属専攻	
主指導教員		国籍	
現住所			
連絡先 email address			
現在の専門分野			
現在の研究課題名			
現在受けている支援内 容と 1 年あたりの金額 (奨学金・給与報酬等)			
現在応募中の支援制度			
これまで学んだ言語と その期間			
学歴（学部・修士）			
職歴			
これまでの休学期間			
応募区分を選択： 区分 1 · 区分 2 · 区分 3			

（注意 1）本事業では、JSPS の特別研究員などの支援を受けている場合および、途中から採択された場合には支援対象から外れます。

（注意 2）申請書は本プログラムの応募審査のみに用い、返却は致しません。

(1) 異分野への挑戦を行う他研究機関での短期共同研究提案	
相手先研究機関	
想定した部署などの情報	
提案研究課題名	
<p>・本事業で採択された次世代研究員は、異分野短期共同プロジェクトの開発を行っていただきます。国内の研究機関、他大学、企業の研究内容を調査した上で、新しい共同研究や共同プロジェクトを提案してください。例として多摩地区には、国立極地研、国立天文台、情報通信研究機構（NICT）、JAXA 調布宇宙航空センター、NTT 武蔵野研究開発センター基礎研などがあります。その他、国内であればどの研究機関での研究提案でも構いません。</p> <p>・評価基準としては、自らのスキルを活かしたものになっているか、半年という短期間で仕上げるスケジュール感はあるか、相手機関に受け入れられるものになっているか、自らの専門研究からどれだけ乖離したものになっているか、などになります。記述するにあたって対象機関に事前に連絡や確認をとる必要はありません。自らのアイデアを書いてください。</p> <p>・目的、研究スケジュール、半期での目標、その後の展開予想など。図表を用いても構いません。最大で2ページ以内で記述ください。</p>	

（1） 異分野への挑戦を行う他研究機関での短期共同研究提案 （続き）

（2）研究者・技術者向けリスクリソース・リカレント教育ツール提案

提案する教育ツール名

・ご自身の持っている研究スキルや自分の専門研究に関連した技術などを利用し、社会、特に産業界の研究者・技術者が必要とすると思われる教育ツールを提案してください。評価は、教育ツールとしてのオリジナリティ、教育ツール商品として社会に出した場合のインパクト性、社会のニーズへの対応などの点で行います。

・想定する社会のニーズや自身のオリジナルな部分、どうやって社会人再教育を行うか、実験装置やツールなどのコストなどについて記述してください。図表を用いても構いません。**2ページ以内**。

（青字の部分は削除して記入してください）

（2）研究者・技術者向けリスクリソース・リカレント教育ツール提案（つづき）

もし、本プログラム支援学生に選考されなかった場合でも、このツール開発を行う希望はあるか？	はい	いいえ
--	----	-----

(3) ベンチャー起案	
提案するベンチャー名	
<p>・あなたがベンチャー企業を立ち上げるとします。会社を起業しようとしたとき、どんなものを作るとか、作れそうかを書いてください。ものを作る、サービスを提供する、学内の何かを利用する、海外のものを持ってくるなど様々なものが想定されます。自分の専門性や適応できる分野、社会での必要性やビジネスとして成り立つかなど、自由に書いてください。本項目は、その実現可能性、アイデアの独創性、ニーズとのマッチングなどを評価し、前の(1), (2)の課題とは別に加点方式で評価します。</p> <p>・図表を用いても構いません。1ページ以内</p> <p>(青字の部分は削除して記入してください)</p>	